

# 転倒を繰り返していた かたき利用者への取り組み

## 利用者情報

70 歳代女性

左上腕骨骨折

右大腿骨頸部骨折

アルツハイマー型認知症

介護度：**要介護 4** リハ初回介入日：2020 年 10 月 27 日（週 2 回介入）

## 【利用までの経緯】

自宅内での転倒を繰り返し、最近では記憶力などと共に活気も低下してきたご利用者でした。直近では、乗り移りなどの動作は全介助となっていました。また、トイレでは、膝折れがあり 2 人介助となっていました。

## 【課題】

長女夫婦共働きのご家族のもとで在宅での暮らしを望まれました。転倒なく安全に暮らしながら、活気を向上させる生活を図っていく必要がありました。転倒を繰り返していた事から立ち上がる事に対する恐怖感や手術部位の痛みなどが問題となっていました。

## 【かたき生活リハビリでの対応】

まず、立ち上がり動作の安定化を目指しました。最初は、恐怖心が強く重介助での動作となっていました。そこで、座位で前方に腕を伸ばす運動などから、前方向への重心移動に対する恐怖心の軽減を図りました。その後、楽に立てる方法を繰り返し練習し、自信をつけていただけました。

## 【日常生活での変化】

スタッフとご利用者が顔馴染みとなり、受け答えができる日も多くなりました。手助けが必要だった食事も自分で食べる量が多くなってきました。また、曖昧だった尿意・便意もご自身で訴える回数が多くなり、トイレ動作自体もトイレまで車いすで移動しての 1 人介助での実施が可能になりました。自宅でもご家族の介助でポータブルトイレの利用が可能になっています。

## 【現在の本人、家族の声】

会話の反応の薄かったご本人から「かたきにも慣れて、楽しくやっています。」との声を頂いています。また、ご家族からも「定期的な病院への受診は私 1 人で、自家用車で連れていくことができます。」と移動能力の向上が図られています。

## 【まとめ】

転倒による骨折、入院での手術を繰り返す方には、身体能力だけでなく自宅での環境、服薬状況、認知機能など必要な注意事項が多くあります。退院後、手術は成功していても上手く身体を動かす事ができずに寝たきり生活を余儀なくされるケースがあります。このような事を無くせるように、かたきではご利用者の残存能力を最大限に活用できるよう取り組んでいます。逆に、移動能力が向上してきた際には安全な自宅での環境調整なども検討していく必要があがってきます。

かたきでは、通い・泊り・訪問を顔馴染みのスタッフが対応することで心を開いていただける事が多くあります。リハビリ部門としても看護・介護スタッフとの情報共有の中で、生活の中で活用できる能力を伝えていく事で、直接的な介入時間のみならず、日常生活自体がリハビリになるような環境を目指しています。



## FIM の変化（機能的自立度評価法）



### ①介入当初 2020年10月（FIM22点）

起居動作は指示が入りづらく、また恐怖心が強く重介助であった。  
術創部の左上肢と右下肢の痛みの訴えがある時があり。



### ②2021年1月（FIM28点）⇒運動項目2点、認知項目4点アップ

立ち上がりの指示も入り、介助量の軽減があり。立位保持も行えるようになったので、トイレは1人介助にて可能に。



### ③2021年3月（FIM35点）⇒運動項目6点、認知項目1点

定期的な病院受診を家人介助の自家用車にて可能に。

### ④2021年5月（FIM42点）⇒運動項目5点、認知項目2点

手引き歩行では、5メートルほど可能。  
尿意・便意の訴えもあり、家ではポータブルトイレを使用。



インテリジェントヘルスケア株式会社

〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4丁目11-23 満電ビル3階  
TEL：06-6312-5000（代表） FAX：06-6312-5099  
<https://nursing.nursing-hc.co.jp/>



イメージキャラクター  
ワータンちゃん

ホームページはこちら!

